

静岡県原子力県民講座

平成26年11月30日(日)
アクトシティ浜松コンgresセンター
52～54会議室

< 質疑応答部分 >

○司会 お待たせしました。それでは時間になりましたので、質疑応答に入ります。ここからの進行は、NPO法人HSEリスク・シーキューブの土屋智子事務局長にお願いします。

○土屋 こんにちは。土屋と申します。

私は、プロフィールにありますように、2年前まで電力中央研究所というところに勤めておりました。ここは、中部電力を初め、全国の電力会社からお金をいただいて研究しているところをごさいますて、電気事業にいたものとして、福島事故を防げなかったことについて、本当に心からお詫び申し上げたいと思います。

楠戸先生のお話を聞いておまして、廃棄物の問題を十分に解決することなく原子力発電を続けてきているということについても、少なからぬ責任をとらなければいけないなど考えております。今日は、よい秋の日和の中、休日ご参加いただきまして、そして、たくさんのご質問をいただきまして、1つずつ、丁寧に答えていただこうと思っておりますのでよろしくお願いいたします。座らせていただきます。

順不同ですが、質問を読まさせていただきます。まず最初です。

様々な廃棄物の中間貯蔵とか最終処分というものは、日本の地域には断層がたくさんある、今回、長野の方でも地震がありました、そういう断層がたくさんありますけれども候補地はあるのでしょうか。あるいは、レベル別にあるか…というのは、例えば、そんなに危険度が高くなければ置けるけれど、危険度高ければ置けないとかそういうことがあるのかもしれないですが、まず、活断層だらけの日本で候補地があるのでしょうかということ。いかがでしょうか。

○楠戸 活断層のマップがないので申し訳ないのですが、代わりとってはなんですが、火山マップのほうをお見せしたいと思います。

これ（配布資料69ページ）は活断層ではないんですけれども、日本における火山のマップです。イメージ的に代用してしまおうと思っているんですが、活断層も活断層マップというものがあまして、活断層の位置がある程度わかっています。火山のできる位置が決まっております、火山がないところは、白い空白になってございますけれども、断層のほうもこういうマップがあつて、活断層のある部分とない部分がございます。活断層が細かくある一方で、活断層の影響がない、処分場をつくるにあたって活断層の影響がないであろうと考えられる部分が存在します。火山があるところも処分場として向きませんし、活断層があるところも向きません。両方のマップを重ねていって白いところを探すということになるのですけれども、日本においては、面積的に6～7割の場所がそういう（火山も活断層もない）場所に当たると言われております。日本では、国の政策といたしましては、6～7割の場所がそういう場所に当たることがマップ上で一応確認されておりますので、そのような場所で処分なり、中間貯蔵をしていけばよいと考えております。（補足：活断層マップは、独立行政法人産業技術総合研究所の活断層データベース（https://gbank.gsj.jp/activefault/index_gmap.html）等で公開されています。）

○土屋 ほぼ同じご質問なんですけれども、地震大国の日本の中で、先ほどの説明の中で10万年間安全にしておかなければいけないとか、かなり長い時間のことがありますよね。健康に影響がなくなるまで、きちんと安全に管理できるようなところが本当にあるのですか。この絵は今わかっているところですが、10万年間という長期にわたって安全な場所がありますかというご質問です。

○楠戸 100万年とか50万年単位の話なんですね。申し訳ありません、きちんと説明すればよかったのですが、例えばこれ（配布資料69ページ）は火山なんですけれども、100万年から50万年前に活動した火山が黒い三角形、赤いのが50万年前から今までに活動した火山です。両方比べてみるとほぼ同じ位置になっていて、火山がないところは火山がない。活断層も似たようなマップになりまして、安定した地層は何万年経っても安定しているということが知られています。私は地質学の専門家ではありませんので、詳しいことは本当は地質学の専門家の方にとと思うんですが、地質学者の方々の意見によれば、何万年も動かない地層は今後何万年経っても動かないんだという、そういう理論、そういう専門的な見地があるということなので、動くところはわかるということらしいです。地層処分で10万年なら10万年、それくらいであれば動かない地層はわかるであろうと考えられております。

○土屋 次のご質問ですけれども、高レベル放射性廃棄物を地下に埋めてしまった後は、人間社会から隔離されるというご説明があったんですが、隔離されるということだと何が危険なのかがよくわからなかったというご質問です。何がリスク要因になっていますか。

○楠戸 地下に埋めるという話で、例えば、人間が何も活動しなければいいんですが、何も知らない人が、地層処分の処分場を掘り返してしまうというシナリオもよくあるんですね。人間が侵入するシナリオって言うんですけれども、処分場の記録がもし残ってたりして、好奇心から掘り起こしてしまうとかそういう可能性が必ずあるんですね。そういうことに対してどうするかとか結構重要で、そういうものは真剣に考えられていると思うんですが、なかなか答えは出ないです。

○土屋 先ほどのご説明だと、高い放射能レベルを持っているものに水が接触して、地上に上がって行って、私たちが住んでいるところを汚染するというものがあったんですけれども、もう一つ、私たち自らが高い放射能のところに行く、アクセスするというシナリオもいろいろ検討されているのでしょうか。

○楠戸 はい。

○土屋 埋めてからというのはそういうお話らしいですけれども、私も気になっているのが、つくってからしばらく地上に置いてありますよね、完全に処分場に埋めてしまうまで時間がありますよね。そういう置いておく間、保管するとか操業中の安全とか、オーバーパックは1,000年持ちます、持つように設計していますというお話がありましたが、もうちょっと手前の100年とか1,000年間持つというのは、本当に持つのだろうかというのが一番心配な、10万年ではなく、もうちょっと手前のところの技術というのは開発されているのでしょうかというご質問です。

○楠戸 ガラス固化体が1,000年間持つのでしょうかというご質問でしょうか。

○土屋 ガラス固化体というか、1,000年間安全に置いておくオーバーパックの話とかありましたけれども、その技術ってあるんですか、確立していますかということですか。

私も100年前のことを考えると、100年前の技術って今までもつんだらうかとか、1,000年前って平安時代なので、鎌倉とかそのあたりの技術が1,000年間もたせてくれるんだらうか、ちょっと心配だったりしますが。

○楠戸 我々が考えているのは経験則なので、例えばオーバーパックの話になりますが、考古学関連の出土品とか、鉄の場合はこういう（配布資料70ページの左側）出土品なん

ですが、ガラスの場合は火山ガラス、何万年とか何億年でしたっけ、かなり古い火山ガラスですとか、ウラン鉱床とか、自然類似現象というのはいろいろございます。（補足：自然類似現象の研究例として有名なものには、千葉県で採取されたほとんど変質していない約100万年前の火山ガラス、約20億年前に核分裂の連鎖が起きていた天然の原子炉として名高いガボン共和国オクロのウラン鉱床などがある。）そういうものの、例えば火山ガラスだったら、何万年前に地下水と接触した火山ガラスがどのくらい溶けて、ガラス中の成分がどのくらい移動するとか、そういうデータの蓄積ですとか。オーバーパックですと、炭素鋼の場合だったら鉄くぎとかですし、銅の場合だったら銅鐸とかそういうものになりますけれども、こういう地下に埋まっていたものを掘り出します。そして、そのものが何年前に埋められて、どういう状況で出てきて、周りの土に金属の成分がどのくらい含まれていて濃度の分布がどうなっているとか、いろんなことを調べていって、全部地層処分という技術に反映させていっているんですよ。例えば、鉄の場合には、こういう環境であれば、どれだけ錆びるっていうのが予測できるんですね。室内試験の例で、これ（配布資料70ページの右側）は自分たちでいろんな条件を作って、3ヶ月と書いてますけど長ければ10年ぐらいですかね、こういう試験もやりますし、1,000年前に埋められた考古学的な出土品とかそういうものを全部調べていくと、だいたいこういう環境ではこういう錆び方をして、こうなるだろうというのがわかって、これ以上は腐食しないですとか、こういう錆び方はしないとか、逆にこういう錆び方はするとかいろんなことがわかっていて、1,000年大丈夫っていうのが経験則として確認されているんですけど…

○土屋 1,000年持つように設計しているというのは、単純にできますと言っているのではなくきちんと…

○楠戸 データを蓄積しているんです。

○土屋 鉄とか銅とかがどういう風に錆びるかというのもきちんと確認してらっしゃる。

○楠戸 それから、ガラス固化体のガラスなんですけれども、ガラスが何万年経つとどれだけ溶けるというデータは、ナチュラルアナログの例もありますし、室内試験の例とかもあるんですけれども、全部突き合せていって、こういう条件で一番溶けるであろうっていう、最大何ミリ溶けるというのは予測ができる。本当に実験するとそうなるので、ならなかったら非常に問題なんですけれども、長期的なデータと短期的なデータを全部合わせていって、そうなるということが確認されているから大丈夫だろうと。

○土屋 （参加者に向けて）また追加でご質問があれば、お願いします。

それから、日本国内に多くの原子力発電所ができて、そもそも東海村に最初の原子の火が灯ってからは50年以上経っているわけですが、その間に高レベル放射性廃棄物が発生してきたわけですね。でも、今日の話で処分施設がないという話があって、これまで高レベル放射性廃棄物の処分計画というのはどんなふうを考えられて進められてきたのでしょうか。学術会議が暫定保管というような新たな考え方を出しておられるわけですが、今後どういうふうに処分は進められていくのでしょうか。見通しはいかがでしょうかということ。かなり難しい質問だと思います。

そもそも技術開発とかはだいぶ前から始められていたんですよ。

○楠戸 最終処分法というのが2000年からという話があったと思うんですが、経緯のところに「可決され」と書いていますけど、根拠がなく可決されているわけではなく、その前の研究開発の結果、大丈夫であろうという見通しがあるので、これが可決されたという話になります。

原子力機構のホームページ (<http://www.jaea.go.jp/index.html>) にレポートがございまして、例えば、研究成果を見たい場合には、こういう原子力機構の地層処分に関する研究開発 (http://www.jaea.go.jp/04/tisou/toppage/top_l2_seika.html) とか、こういうところを見るとかなり詳しいことが載っております。地層処分が安全にできるという根拠となっているレポートは、1999年のレポートなんですが、こういう成果を年代ごとにまとめているんですけども、第2次取りまとめと書かれている、ここ (<http://www.jaea.go.jp/04/tisou/houkokusyo/dai2jitoimatome.html>) にいけばどなたでも見ることができます。どなたでもダウンロードができる、こういうものがございまして、すごく読むのが大変ですが、このレポートが根拠になっています。日本で地層処分が安全に行われるという見通しが得られた根拠がこのレポートです。もしご興味があればというところなんですが、第二次取りまとめの前にも第一次取りまとめといって、地層処分ができる見通しを得る前の見通しといいますか、地層処分の可能性を示した平成3年のレポートがありまして、原子力機構の中で研究成果を検索するところ (<http://jolissrch-inter.tokai-sc.jaea.go.jp/search/servlet/interSearch?>) から入れば、どなたでも見られます。（補足：第一次とりまとめのURLは、『<http://jolissrch-inter.tokai-sc.jaea.go.jp/pdfdata/PNC-TN1410-92-081.pdf>』です。）原子力機構のレポートは、だいたい見られるんですけども、昔から研究自体は

されていて研究成果の積み重ねによって、地層処分ができますということが、科学的に工学的に実証されて、それで法律ができて、地層処分をしましょうという話になって、うまくは計画通りにいっていないけれども、計画が立てられて進んでいるということになるんですが。どういうふうに説明すればよろしいでしょうか。

○土屋 原子力機構といているところで、最初に高レベルの研究が始まったのはいつ頃でしょうか。かなり前からやっているということですね、放置していたわけではなく…

○楠戸 放置していたわけではないです。原子力を始めたときから廃棄物が出ることはわかっていたので、頭にはあったということで、後手後手ではありますが…

○土屋 海に捨てようとかいう話も最初のころはあったから、ロンドン条約で海に投棄するのが駄目になる前は、海洋投棄の話も進んでいたということだとは思いますが、それが駄目になり、いろんなことが駄目になり、最終的に残ったのが地層処分ということですね。でも、それについても、きちんと研究実績があったと。これからについてはどんな見通しをもっていますか。個人的に。

○楠戸 なんとも言えないですね。なかなか決まらないんじゃないかと思いますが、国は申し入れするんでしょうけれども。例えば指定廃棄物の問題がございまして、確か福島がどうのという話をされた方もいらっしゃったかと思いますが…そっちを先に言ってもいいですか。

○土屋 実はその関連でご質問がきています。最初のところを思い出していただくといいかなと思うんですが、今日お話いただいた高レベル放射性廃棄物というのは、再処理をして出てくるもの、あるいは他の国だと使用済み燃料のことを言っていますけれども、ご質問で、処分場あるいは埋立地が決まっていないという話でしたけれども、これは福島に限られたものですかというのをいただきました。福島で出ている廃棄物と混同されておられるかなと思うんですが。もう一回説明していただいてもいいですか。

○楠戸 今福島で問題になっているのは、原発事故の廃棄物が主だと思います。原発事故の廃棄物には今まさに廃炉にしようとして、事故の原子炉のところで出てくる廃棄物や、汚染水の話とかがあると思うんですが、もう一つ福島で問題になっているのは、指定廃棄物と対策地域内廃棄物だと思います。あと除染廃棄物。福島で出た汚染がひどい地域のごみは、放射能が高いんですけれども、このごみというのは放射能が高いといってもコンクリートピット処分相当になります。

○土屋 L2ですね。

○楠戸 高レベル放射性廃棄物とあまり混同していただきたくないんですが、最終処分場、最終処分場と言っておりますが、トレンチ処分にしましても、ピット処分にしましても、余裕震度処分にしましても、全部最終処分場という言葉を使っています。もちろん指定廃棄物、福島に限らず、千葉とか茨城とか宮城とかいろいろな地域で出ているものは「各県ごとに処分場を」という話になっていて、これ（高レベル放射性廃棄物）とは全く別の話になっています。補足資料の方のスライド（配布資料56ページ）なんですけれど、千葉とか茨城とかで出ている指定廃棄物というのは、1kgあたり8,000ベクレルを超えたものを環境大臣が指定したものとされていて、それはだいたいトレンチ処分とかピット処分対象になっているんですけど、ピット処分対象になるには1kgあたり10万ベクレル。そういうものが決まっています。規制値があって決まっています。でも、地層処分というのは全く危険性が違います。高レベル放射性廃棄物の最終処分場の話と指定廃棄物とか除染廃棄物とか、原発事故がらみで各地域でみんなを悩ませている廃棄物は違って、ご質問の話は福島に限定されていたと思うので、中間貯蔵施設をつくって30年後に県外に持っていく話とか、そっちの話なのかなと思ったのですが。

○土屋 そうですね。現地で今後発生する汚染物の処理はどうなっていますかとも書いてあるので、今後というよりは今発生しているものではないかなと思います。とにかく問題は、最終処分場とか中間貯蔵施設というのがいろんなものに全部同じに使われているということですね。福島のところはもっと低い問題を扱っていて、今日お話いただいた高レベルというのは相当高い…

○楠戸 福島の事故のことであれば、高レベルというのは溶融した燃料に相当する。あれは高レベル放射性廃棄物でいいと思いますけれども、それ以外は低レベル。例えば汚染水は低レベルになると思います。

○土屋 メルトダウンしてこれから取出しが難しいと言われているものは、かなり嚴重に処理するものになるだろうということですね。それ以外の外のもは違う。レベルに応じて処分する。それぞれのレベルに応じて最終処分施設をつくるということですね。私もときどき新聞を読んでいて混乱するんです。最終処分場が決まったとか決まらないとか、びっくりするんですけども、ぜひ気をつけて読んでみていただければと思います。

処分施設が決まらないということについては、いろいろなご意見があると思うんですね。これはご意見をお伺いしたいと思いますが、今まで原子力発電所で恩恵を受けてきたというところがある意味責任を持って処分を考えるべきではないでしょうかというご

意見もきておりますが、いかがでしょうか。

どういふふうに処分施設をつくれればいいのかということについて、今は公募をして、公募で手が挙がらなかったから国が申し入れるという話がありますが、でも産業廃棄物のように県が責任をもって、多額の交付金を受けているのだから、それで考えるということもありませんかというご意見だと思いますが。

○楠戸 電気の話は、交付金をもらっているところだけではなく、皆さんが使っていて、廃棄物の話は、一人ひとりが等分というか、電気を使った分だけ出しているっていう意識が必要で、使っている人たちが廃棄物を出しているっていう意識がないと本当はいけない。よく議論になるんですが、原発立地県の方々は意識が高いんですよ。いろんな考えの方がいらっしゃるんですけども、賛成派の人もいらっしゃるし、反対派の人もいらっしゃるんですね。例えば処分場の問題を考えましようといったときに、ある人が言っていたんですが、「自分は処分場が来てもいいとは思いますが」と。その人はですよ、「安全だと思うからいいと思うけれども、うちがいいと言ってそれで決まっちゃったら嫌だ」と。公平感がないとか、もうちょっと尊重してほしい、リスペクトしてほしいとか、そういう意識があったりする。うちのところだけが犠牲になるのは嫌とかそういう意識が、いろんな方がいらっしゃると思うんですけど、あると思います。日本人全体を見て、「電気を使っていて感謝しましょう」みたいな意識もないし、廃棄物を出している意識もあんまりないのかなという感じです。処分場の話が来たらとりあえず反対みたいなことになるので、どうすればいいのかっていうのはあれなんですけど、まずは意識を高めていって、廃棄物について考えられるような世の中にして、高レベル放射性廃棄物の話は、私たちの世代で終わる話ではなくて、もっと下の世代にどんどんバトンを渡していって引き継いでいかなければならない話なので、みんなが納得するような社会づくりといいますか、そういう下地がないとなかなかうまくいかないのかなと思っていて、どうすればいいと思いますかと言われても、お金を積めばいいとは思えませんので。お金を積んで解決するとは私は思っていないので。

○土屋 原発の恩恵を受けたからそこが責任をもつべきというよりは、日本全国の私たちが恩恵を受けてきた、その結果として出てきた廃棄物だという意識が必要だと思いますね。

○楠戸 処分する際には、やはり危険なところに処分するわけにはいきませんので、とりあえずはマップ上危険のないところはもちろんですけども、きちんと調査して、ここ

なら大丈夫というところに処分場を設けてほしいというか、そういうふうなことになればよいとは思いますが。

○土屋 入口がまさにどこに処分するのか、処分の場所の確保というところからうまくいっていないわけですが、時間はないんだけれども、処分をどうしてもしなければいけないまでの間に、科学的な発展によって、もっと安全な方法が開発できる可能性はありますかというご質問です。

○楠戸 地層処分の技術自体も日々開発されているといたしますか、だいたい100年くらいはかかる事業なので、その間にどんどん技術を蓄積して行って改良していこうということはもともとあります。今うまくいっていないし、いろいろあれなんですけど、未来に期待するという考え方もあって、いろいろありますが、可能性としては、みなさんがどういう判断をされるのかわかりませんが、群分離・核変換技術とかに期待をかけている方もいらっしゃることはいらっしゃいますね。ただ、これで解決する問題ではなくて…

○土屋 そうですね。結局、地層処分はしなければいけないものが残ってしまうというお話でしたよね。

○楠戸 現段階では、毒性を減らすといたしますか、放射性物質の半減期を減らしたり、違う物質に変えて半減期を減らしたりということはできるんですが、放射性物質の放射能をゼロにすることはできなくて、そこまでは研究者も、今、ほとんどの方は考えていらっしゃらないです。というか現実的にできないので、そこまではたぶん100年後にできてないでしょうと思うんですけれど。だいたい2050年くらいにこのくらいに減るといいなあとというくらいで。ウラン鉱石と同等の放射能レベルに下がるまでの期間が、300年とかだと思いましたがけれども。

○土屋 何万年ではなく、何百年くらいにするためにやっぴらっしゃる。でも地層処分は必要ということですね。

○楠戸 そうですね。おそらく、一生懸命技術を開発しても、放射能をゼロにはできなくて、ある程度は危険なものが残ってしまって、危険なものは濃縮するんですけれども、濃縮して減容化して減らしていくので、全体的な量は減るかもしれませんが、地層処分は必要なので、処分場も必要です。より安全な技術は努力すれば開発されていくのですが、絶対に安全と言われるとどうなんでしょうか。

○土屋 ご質問の方は、絶対安全ということではなく、より安全というふうにおっしゃってられるので、技術者の方たちは、より安全なものを…

- 楠戸 より安全なものを目指しているのですが、今よりは向上していくとは思いますが。
- 土屋 今は4万本を処分しようという規模のものが計画されているわけですが、たぶんご説明の中にあつたような気はするのですが、その施設に処分できるのは、日本の原発が全て稼動していると仮定して何年分なんですかというご質問です。
- 楠戸 原発が順調に動くと仮定した場合に平成33年という話なんですね。
- 土屋 それ以上動かすとまた新たな処分施設が必要ということですか。
- 楠戸 いろいろなシナリオがあると思うんですよ。今政権がどうなるかわからなくて、どうなるんでしょうか日本は。よくわかりませんが。4万本とか19,000m³とかいうのは、平成33年までの発生量。震災とかが起きる前の試算なので、順調に動いていたときにこれだけ発生するという話で、今原発が止まっているので、平成33年にこの量になってないだろうと思われるんですよ。逆に。
- 土屋 あと、動かない原発もできそうですから、そういう意味では33年ではなく、もうちょっと長く処分施設に入れられるかもしれないけれど、さらに動かすんだったら、また新たな処分施設が必要ということですね。一つ処分施設をつくるのにも四苦八苦しているので、第二処分場をつくるなんていったらまた大変だと思います。
- ということは、ある意味高レベルの問題は、原子力をどういうふうに使っていくかということにも関わってきているんだろうなということで、ご意見を伺いたいというご質問もあるんですが、その前に、今までいただいたご質問について、いくつかお答えいただきましたけれども、追加でこれ聞きたいんだけどというような方、いらっしゃいますでしょうか。私にご質問の意味を誤解して質問していて、実はこういうことを聞きたかったんだけども、そういうことがございましたら、よろしく願います。いかがでしょうか。何でも。いかがでしょうか。
- 私ちょっと、大学で地震とか津波とかの先生方とお付き合いしていると、先ほど活断層大分わかっていますというお話でしたが、地震の先生方からするとわかってなかった活断層で大きな地震が起きることがときどき最近ありまして、鳥取の地震なんかそういうものだったわけですよ。なかなかわかっていますといわれても、ちょっと心配かなと思うんですが。
- 楠戸 そのために詳細な調査をするんですね。文献調査は過去の記録の調査なので、その範囲でしかわからないんですけど、実際に掘って確かめれば、活断層の位置とかが正確にわかると思いますね。なので、その点は問題ないのではないかと。

- 土屋 地図だけでやるのではなく、細かく丁寧に調査をされると。
- 楠戸 活断層は調査しないとわかりませんが、初めからあるというところを調査しても何の意味もないので、ないだろうという予測のもとに調査していかないとお金の無駄使いになりますので。
- 土屋 日本中を掘り返すわけにもいきませんしね。慎重に調査し、選定していくということでしたけれども。
- 何か、何でも結構なので、わかりにくかったことでも結構ですので。いかがですか、質問。
- 質問者 一ついいですか。
- 土屋 どうぞ。
- 質問者 今先生の方から、いろいろな方法、地層処分聞いたんですけれども、現実的に場所も技術的な問題もまだ本当に確立しておらないような感じを受けるんですけれども、その間に今ある原発、今止まっていますけど、再稼働という動きがあるんですけど、稼働すればするほど廃棄物は増える、これは間違いないですよ。ですから、せめて増やさない、つまり原発を再稼働しないという選択はないのでしょうか。
- 楠戸 今度衆議院選挙があると思うんですが、そこで皆さんがそういうマニフェストを掲げている政党にみんなで投票すれば、そういうことになるのでは。
- 質問者 先生のお考えはどうですか。
- 楠戸 難しいと思うんですよ。地球環境の問題というのはいろいろ複雑でして、環境に本当にいい発電方法というのは、たぶん一つもないですよ、世の中に。何らかの問題が、どういう発電方法をとっても問題があるので、我々が電気を使う限りは必ず何か問題が起きるはずなんです。確かに原発を使えば地震が怖いし、火山も怖いとか。それはそうなんですけれど、原発をなくしたとしても、皆さん電気を使いたいので、他の発電方法に頼るということになると思うんですけれども。温暖化も「あれは嘘だ」という人がいますが、私は最近の異常気象とかみますと、地球温暖化の影響でおかしいのかなという気がしております、例えば火力を増やしたと仮定して、もしもっと気温上昇がおきたりしたら、それはそれで嫌だなんていうのもありますし、難しいですよ。本当にどうすればいいかっていうのは、我々が電気を使わなければ一番いいんでしょうけど、そうすると経済活動とかも「どうなってしまっただ日本は」ということになってしまっ。みんなが電気を使わない社会というのは賛成しないと思うんです。どうでしょう

か。

○土屋 電気は原子力発電所だけでつくるわけではありませんし、私は最近トヨタさんが発表された燃料電池車とか水素エネルギーにも期待をしていますけれども。廃棄物はいろんなものを使うと出てきて、たぶん蔷薇色のものはなかなかないんですよ。

○楠戸 蔷薇色のものがないから、原発が止められないっていう話にもなっているし、地球温暖化しても火力を使うって話にもなるし、利益があるからリスクも我慢しようかという社会になっているんだと思いますが。

○土屋 ぜひ皆さんで議論されて、静岡県は新しいエネルギーの社会をつくっていただいて、見本になっていただくとありがたいかなと思いますが。

他に何かございませんか。いかがでしょう。では、こういう場ではなかなか質問できませんとか、ご意見もあるかと思います。アンケートに書いていただきますと楠戸さんが一生懸命答えて下さると思いますので、よろしく願いいたします。短かったですけれども、時間がきましたので、今日の会議は終わらせていただきたいと思います。どうもご協力ありがとうございました。

○楠戸 ありがとうございました。

○司会 先生方どうもありがとうございました。では、以上をもちまして、静岡県原子力県民講座を終了します。長時間にわたり、ご清聴いただきありがとうございました。